

# 快適な毎日を支える 屋根は大事なパートナー。

機能的で快適、風雨や災害に強く、お気に入りのデザイン。

あなたの理想のマイホームを建てる上で、

屋根材選びも重要なポイントのひとつです。

毎日の家族の暮らしやあなたのイメージにぴったりの

屋根について一緒に考えてみませんか？



ママ

31歳、現在は専業主婦。良い環境でのびのび子育てしたいと願う。カフェが大好き。

パパ

35歳の会社員。家族の将来を考えて、そろそろ家を建てようとおれこれ検討中。

いらか

1歳。最近、積み木あそびがお気に入り。

## ところで、屋根材って どんな種類があるの？

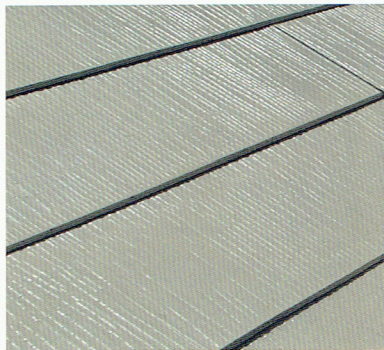
一口に住宅の屋根材と言っても、古くは茅葺き・樹皮葺きなど草木系から、瓦・石・金属まで様々なタイプがあります。その中で昨今は主に「粘土瓦」・「化粧スレート」・「金属」の3種類が広く一般的に使われています。

### 粘土瓦



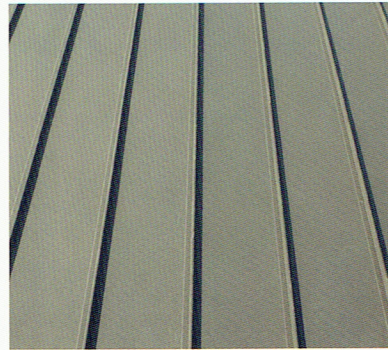
粘土を使った焼きものの屋根材で、表面に釉薬が塗られている釉薬瓦と、焼成方法によって発色させるいぶし瓦などがあります。表面は強く、色味に関しては半永久的にメンテナンスがいりません。いぶし瓦においては、年月とともに深い味わいが出てきます。

### 化粧スレート



セメント、ケイ酸質原料などを用いて、加圧成形した板状の合成スレートに、着色したもので、施工しやすいのが特長です。以前は不燃性を保つため石綿（アスベスト）を使用していました。現在では人工繊維や天然繊維を使用した無石綿の物に変わっています。

### 金属



鋼板・銅板・カラー鉄板などの種類があり、加工しやすく施工性がよいことから複雑な屋根形状ができて、葺き方のバリエーションが多いことが特徴です。最近では、モダンなデザイン性から、ガルバリウム鋼板の金属屋根が多用されています。





# でも、瓦って高いんでしょ？



初期コストは確かに高いですが  
長期的にはとても経済的。

最初にかかる費用が、瓦は他の屋根材と比べて高いのは事実です。しかし瓦屋根は耐久性に優れ、長期の使用に耐えられるためメンテナンスにコストがかかりません。一方、スレート系や金属系は、製品にもよりますが10年くらいから退色や錆が発生し、定期的な塗り替えや葺き替えが必要となります。30年、40年の長期にわたって考えると、瓦屋根は実に経済的です。メンテナンスの手間もなく、丈夫で長持ちする瓦は、決して高い屋根材ではないのです。



腐食したスレート

錆びた金属屋根

## メンテナンス費用の比較イメージ

(屋根面積100㎡として試算)

	化粧スレート	栄四郎瓦
初期コスト	約50万円 (約5,000円/㎡として)	約100万円~※ (約10,000円/㎡として)
10年後	約70万円 (表面塗装+足場)	—
20年後	約70万円 (表面塗装+足場)	—
30年後	約120万円 (葺き替え+足場)	—
合計	約310万円 (表面塗装+足場)	約100万円~※

●化粧スレート費用は住宅産業協議会資料をもとに算出  
※商品によって異なります。

30年で比較すると...  
**瓦が、約210万円  
お得です!**





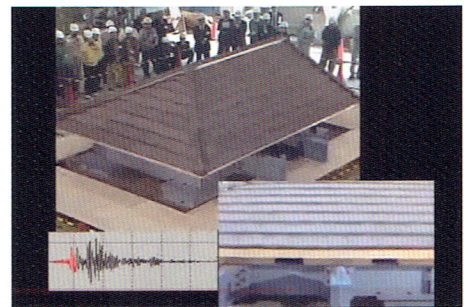
# それに、瓦は地震に弱たって聞いたけど？



## ガイドライン工法に基づいた 施工なら地震対策もバッチリ。

瓦の屋根は地震に弱いというイメージを持たれている方が多いようです。しかし、現行のガイドライン工法で正しく施工された建築物であれば、たとえ阪神・淡路大震災や東日本大震災クラスの揺れでも安全であることが、専門機関による耐震テストで確認されています。建築基準法では、重い屋根でも軽い屋根でも、それぞれの重さに応じて設計されるので、完成した家の耐震性は同程度。むしろ重い屋根を支えるための柱や筋交い、壁などが地震の揺れに対して、より安全と言えるかもしれません。

## 震度7クラスの振動実験にも 耐えられることが確認されています。



「寄棟」形状の屋根での実験の様子。瓦の脱落、ズレ、浮き上がり等は一切確認されませんでした。(2004年10月実施)



実物大の伝統的木造軸組構法住宅の耐震性能検証実験でも施工した屋根瓦に損傷はありませんでした。(2008年11月実施)







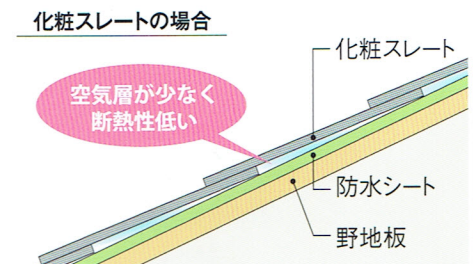
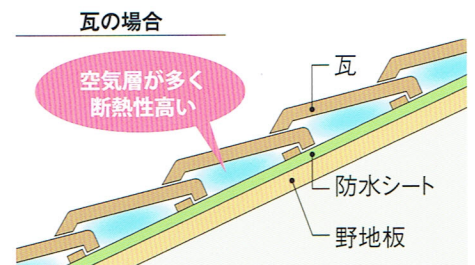
# あたりまえだけど、快適に暮らせなきゃ!



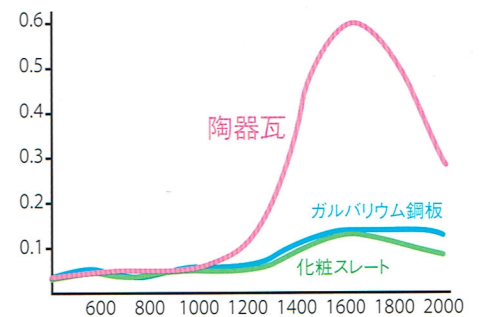
## 瓦は四季の温度差に強く、遮音性にも優れています。

化粧スレート、金属系の屋根材と比較すると、瓦は熱を伝えにくい性質を持っています。また瓦と屋根面との間にある空気の間も断熱効果を生むので瓦屋根は冷暖房効率の良い家を作り出すと言えます。さらに、遮音性にも優れ、金属系で特に気になる雨音などの問題もありません。

## 空気層が高い断熱性のポイント



## 屋根材の違いによる騒音の吸音率



人間の耳で感度の高い1600Hzで瓦は0.58という高い吸音率を示し、優れた遮音効果が確認されています。

